



舞鶴医療センター便り

もの忘れ

認知症とは？

脳の中に異常な物質がたまって脳が障害される進行性の病気です。

もの忘れなどにより日常生活に支障が生じた時に“認知症”と診断されます。

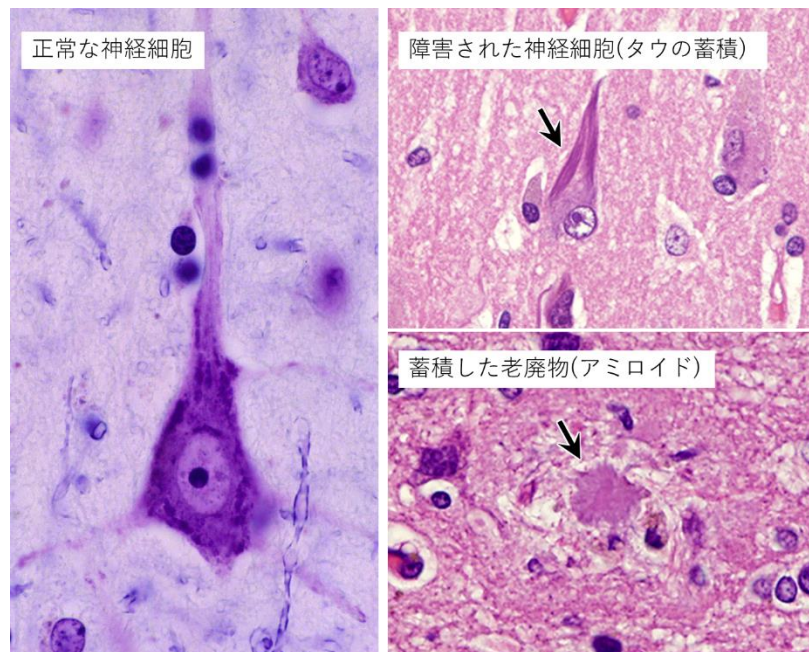
もの忘れ以外に、徘徊や興奮などの問題行動を生じる場合があります。

認知症の中にはアルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、脳血管性認知症などの病気があります。

アルツハイマー型認知症とは？

脳の中にアミロイドやタウという物質がたまり、神経組織が障害される病気です。

一番多い認知症で、もの忘れが特徴です。



レビー小体型認知症とは？

脳の中にアルファシヌクレインという物質がたまる病気です。

もの忘れの他に、幻視（変なものが見える）やパーキンソニズムという歩行障害や動作緩慢を生じます。

早期診断の意義は？

早期に診断することで、介護保険の導入などを含めた将来の対策の検討が可能です。

検査は必要か？

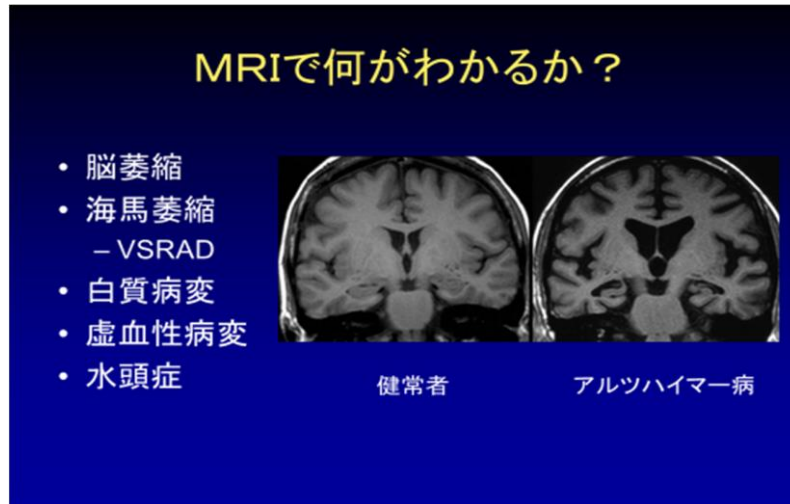
認知機能の検査：MMSE や長谷川式 DR-S が必要です。

確定診断のためには

MRI：脳の萎縮や脳梗塞の有無がわかります。

脳血流スキャン：認知症に特異的な部位での障害がわかります。

さらにレビー小体型認知症の診断には MIBG 心筋スキャンか DAT スキャンが必要です。



治療薬は？

現時点では根治療法薬はありません。以下の症状を軽減する薬はあります。

アルツハイマー病の初期の無気力を改善する薬

興奮を和らげる薬

睡眠障害の改善薬

運転免許更新時の認知症の試験に落ちた

公安委員会への提出書類作成が必要です。

当院の外来に受診してください。

診察は？

脳神経内科と精神科が担当しています。

脳神経内科は月曜日～金曜日の毎日診察しています。

原則家族の方と受診してください。周囲から見た様子も診断の手がかりになります。

精神科は火曜日と木曜日に“もの忘れ外来”があります。

疑問点は？

脳神経内科外来へ

(文責：脳神経内科 木村 正志)

発行元： 舞鶴医療センター 広報委員会